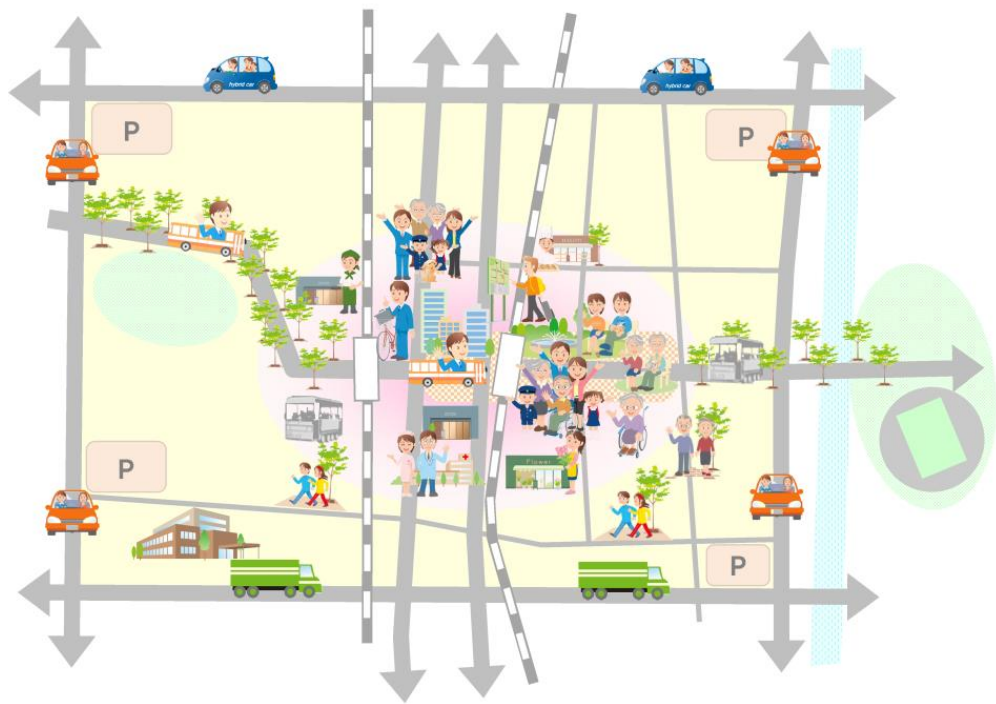


都心環境ビジョン



平成27年1月

豊田市

目 次

はじめに	1
I. ビジョンの概要	
1 策定の背景	2
2 策定の目的	4
3 ビジョンの位置づけ	5
4 対象区域	6
5 ビジョンの対象期間	6
6 ビジョン策定の流れ	7
II. 都心の現状と課題	
1 都心の現状	8
2 都心の課題	12
III. 目指すべき都心の将来の姿	
1 目指すべき都心の将来の姿	13
2 将来の姿の具現化に向けた取組の基本方針	14
3 都心の再整備に向けた基本的な考え方	15
IV. 駅周辺エリアの再整備	
1 再整備案の検討	16
V. 公共空間の活用を踏まえた再整備後の都心の姿	
1 都心の公共空間の活用イメージ	19
2 都心の公共空間の再整備イメージ	20
3 都心の再整備に向けた今後の進め方	21

はじめに

今日の豊田市政として最も重要な課題の1つが「市民が誇りを持ち愛されるまちにすること」であり、豊田市駅、新豊田駅周辺の都心地区は未だ不十分な状況となっています。

平成18年度から中心市街地活性化協議会を設置し、都心地区における活力、交通、環境の分野における検討を行ってきました。また、平成24年度から駅周辺の関係者を中心とした「豊田の都心・交通を考える会」を組織し、都心のあるべき姿やその実現に向けた課題及び方針について検討を進めてきました。

都心地区においては、平成29年度に開業予定である豊田市駅前通り北地区市街地再開発事業をはじめ、様々な事業が実施されていますが、その一方で、東郷町や長久手市などで今後次々とショッピングセンターの開店が予定されていることから、今まで以上に居住者・市民・関係者・来訪者の皆が魅力を感じられる都心へと生まれ変わることが求められています。

また、国内では平成31年にラグビーワールドカップ、平成32年に東京オリンピック・パラリンピックなど大規模なイベントの開催も予定されており、国内外からの来訪者に対する「本市の顔」としても誇りある都心となることが求められます。

そのような状況下において、都心地区が「本市の顔」として、市民、来訪者、事業者及びその他の関係者に望まれる魅力的なエリアとなっていくためには、今後の動向を見据えたうえで、計画的に取組を進めていく必要があります。

それには、必要となる様々な取組を包括的に網羅し、市民や関係者が取組内容やその進め方を共通認識できる計画が必要となります。

平成26年度は「都心再整備に係る有識者会議」を設置し、有識者の方からの技術的・専門的な見地に基づく助言や、整備推進に向け主体的な役割を担う立場の方からの意見を聴取し、その内容を計画に反映させることで、計画の適正な評価を行ってきました。

このたび公表する『都心環境ビジョン』は、その計画の前段部分として、都心再整備の方向性をはじめ、市民や関係者が望む都心の目指すべき姿を明確に示した指針としての役割を担うものとして、平成27年1月現在においてとりまとめたものです。

今後は、本ビジョンを必要に応じて更新しながら、都心全体の取組、公共空間の活用方策等を位置づけた『都心環境プラン』を作成したうえで、『都心環境ビジョン』と『都心環境プラン』を統合した『(仮称)都心環境計画』を策定してまいります。

1. ビジョンの概要

1. 策定の背景

(1) 都心環境ビジョンとは

現在の『都心』が抱える問題を集約し、誰もが魅力的と感じる都心へと生まれ変わるためには、必要となるさまざまな取組を包括的に網羅し、市民や関係者が取組内容やその進め方を共通認識できる計画が必要となります。そのなかで、都心環境ビジョンは、その計画の前段部分として、都心再整備の方向性をはじめ、市民や関係者が望む都心のめざすべき姿を明確に示した指針として役割を担うものです。

(2) 都心の歩み

昭和 60 年以降、名鉄豊田市駅の西口、東口の開発など、各種計画に基づき都心は発展を続けてきました。平成 12 年にそごうが、平成 14 年にマイカルが閉店するなどの危機的状況を経験しましたが、松坂屋やメグリアセントレとして生まれ変わり、危機的状況を乗り越えました。その後も豊田市駅前通り南地区の再開発などをはじめ、都心の魅力向上に向けた取組が続けられています。



【写真】昭和61年頃の豊田市駅周辺の様子

豊田市駅周辺を「都心」と位置づけ、整備を進めた結果、街並みも変貌を遂げた

- S58～H1 豊田市駅西口地区 (現松坂屋・T-FACEビル)
- S54～H7 豊田市駅東地区 (現GAZAビル)
- S59～H11 豊田市民センター地区 (現参考館)
- H12 そごう閉店 (現松坂屋ビル)
- H13～H20 豊田市駅前通り南地区 (現コモスクエア)
- H14 マイカル閉店 (現GAZAビル)

ベネッセ・スクエア
豊田参考館
桜町本通り

(2) 都心を取りまく今後の潮流

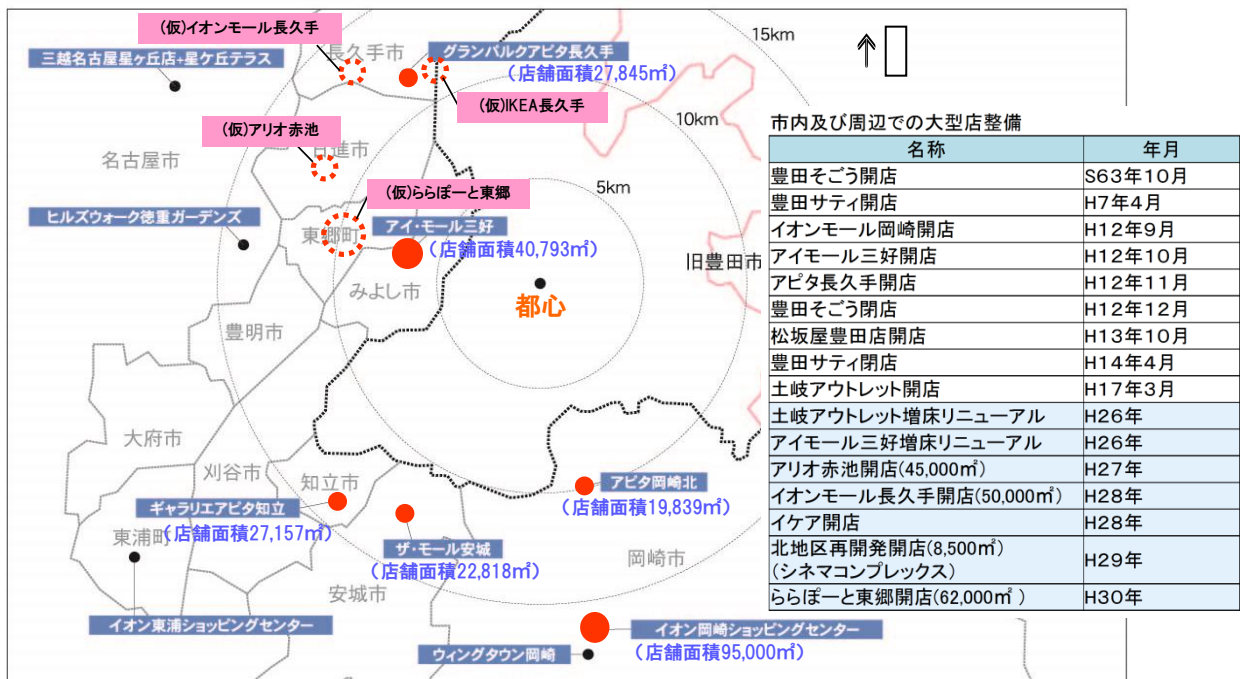
都心における主な今後の動向としては、豊田市駅前通り北地区が平成 29 年度の完成を目指し再開発事業を進めているほか、第 2 期中心市街地活性化基本計画に基づいた各種取組が進められています。また、国内ではラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックなど大規模なイベントの開催も予定されています。

一方で、都心周辺の市町村には今後多くの大規模な集客施設の立地が予定されており、その影響で都心のにぎわいの減退が懸念されています。そのような状況下において、都心が「本市の顔」として、市民、来訪者、事業者及びその他の関係者に望まれる魅力的なエリアとなっていくため、今後の動向を見据えたうえで、計画的に取組を進めていく必要があります。

都心を取りまく今後の動向



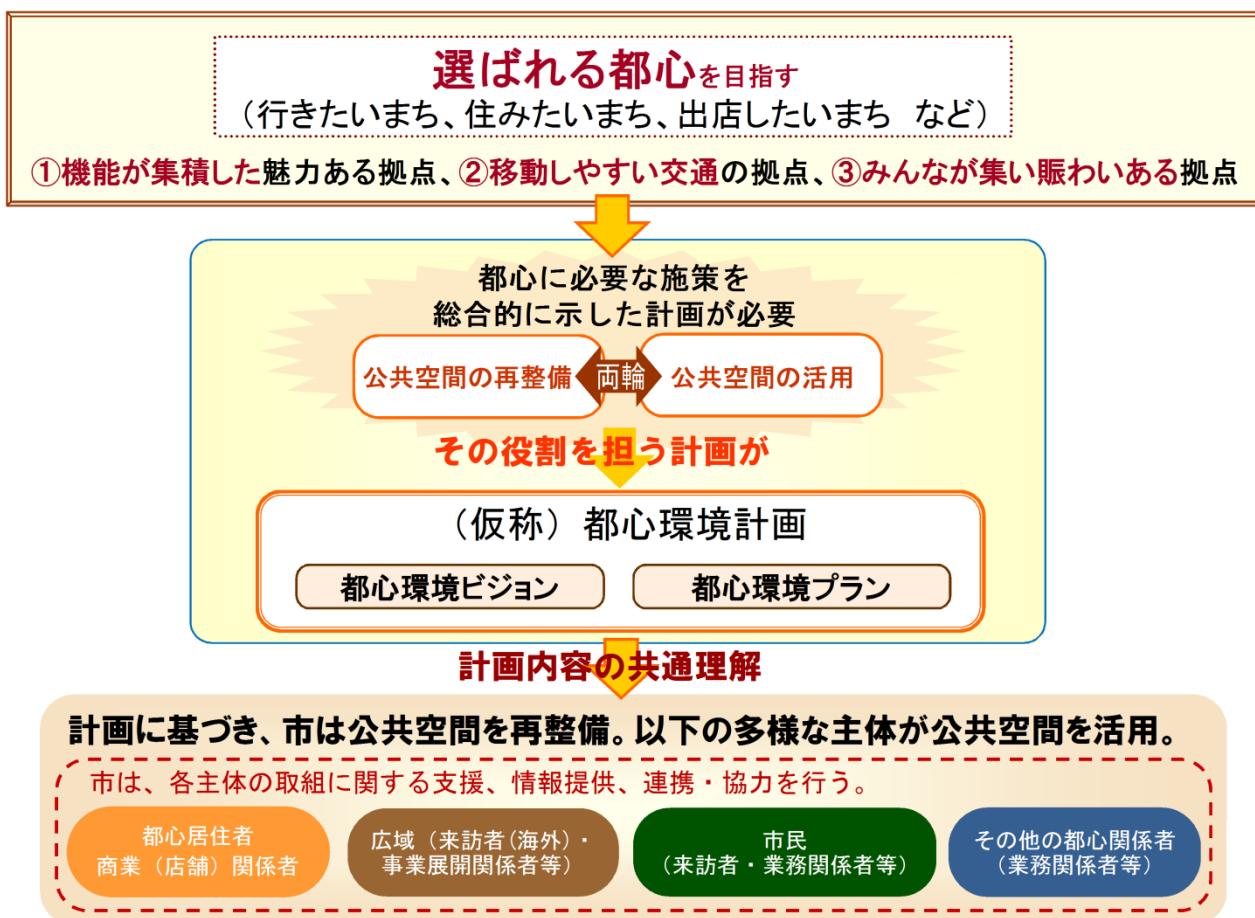
■ 都心の商圈競合となりうる近隣市の各所に、大型ショッピングセンター（平成 30 年にららぽーと東郷など）の開業が次々と予定されています。



周辺市町でショッピングセンターなど大型店が開店することにより、都心の商業環境は一層の厳しさを増します。

2. 策定の目的

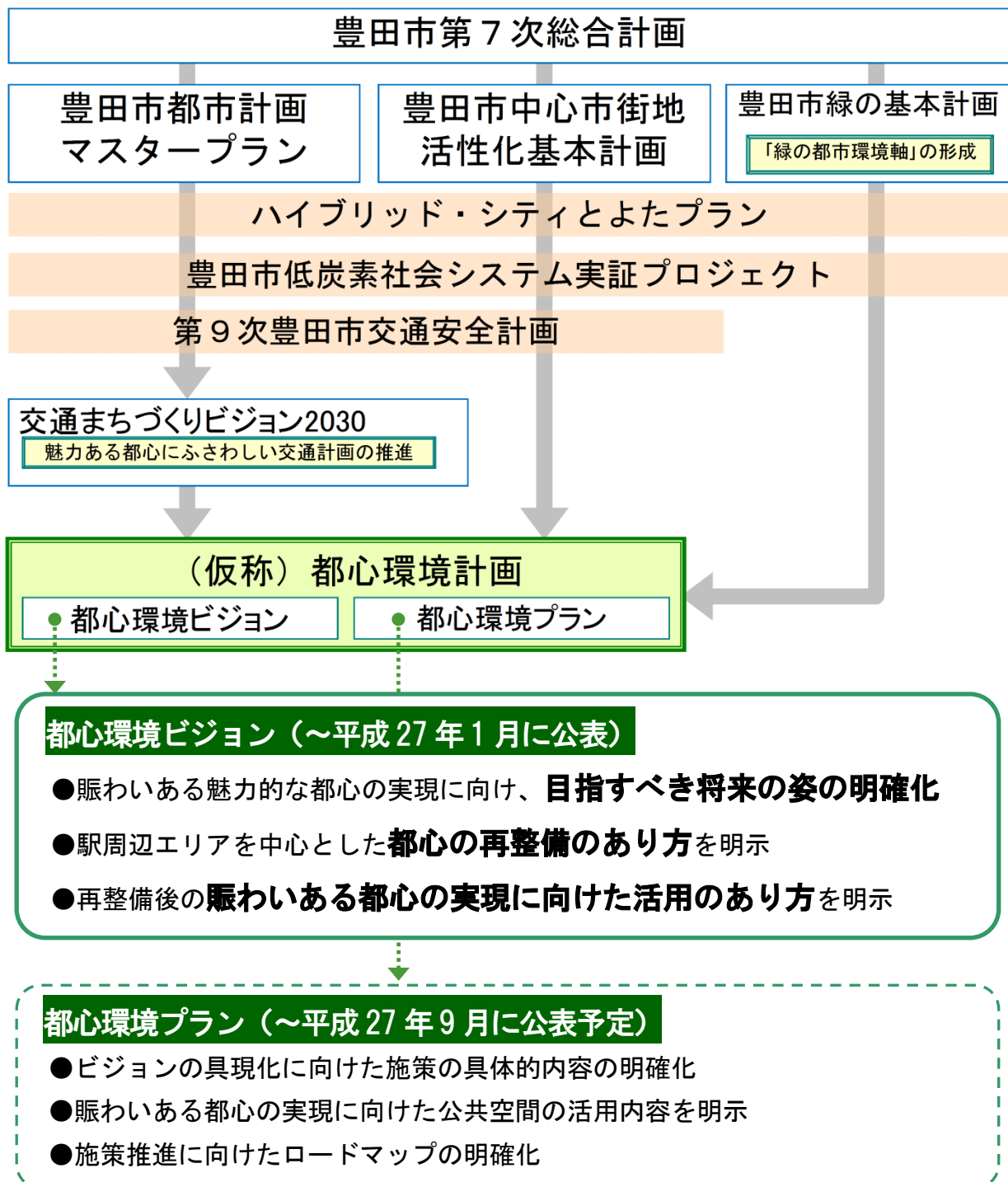
- 『都心』が抱える課題を集約し、都心のめざすべき姿の明確化と、その実現に向けた各種施策をとりまとめた計画とします。
- 多くの関係者を有する都心において、整備を円滑に推進し、かつその整備の必要性を広く市民に理解してもらうため、計画の策定過程において、内容の検討に市民が関わることのできる計画とします。
- 今後の都心における取組内容やその進め方を市民や関係者が共通認識できる計画内容とします。
- 策定した計画に基づき、関係者がそれぞれの立場で主体的に取組を実践することができる計画内容とします。



3. ビジョンの位置づけ

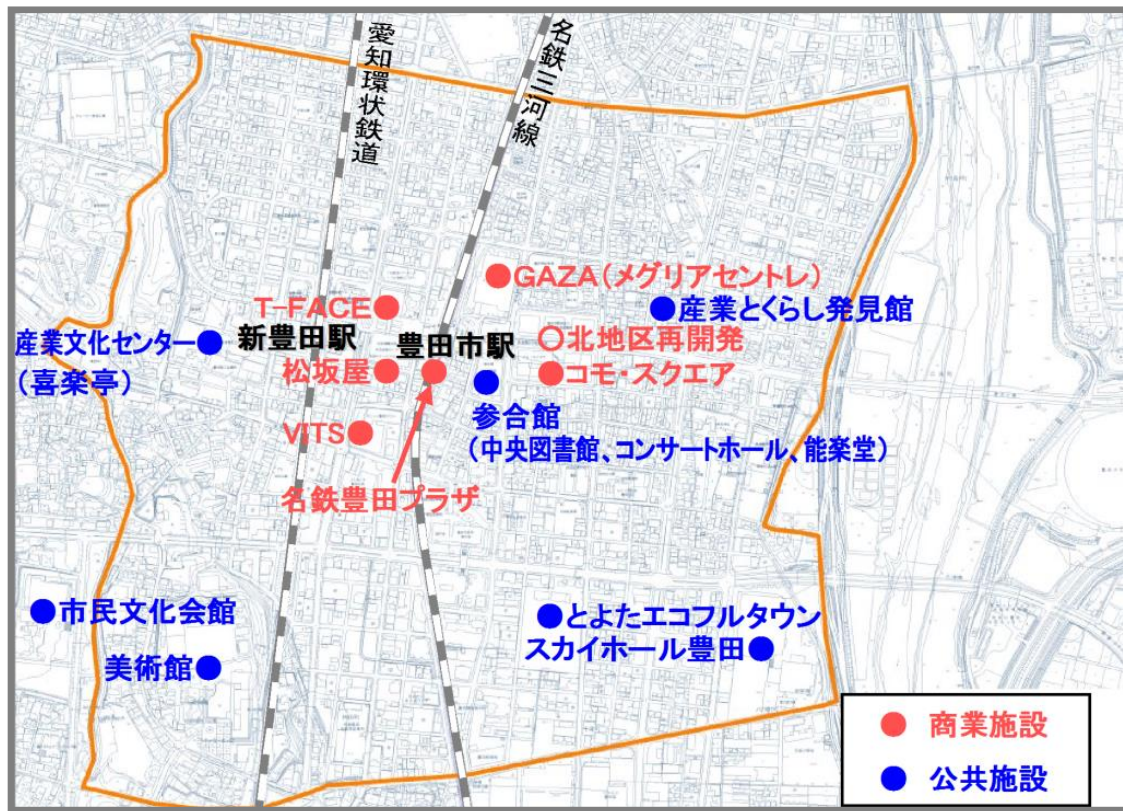
(仮称) 都心環境計画は、交通まちづくりビジョン 2030 における重点戦略プログラム“魅力ある都心にふさわしい交通計画の推進”と豊田市緑の基本計画における重点プロジェクト“「緑の都市環境軸」の形成”など、都心に関する各種計画を総括的に網羅し、賑わいある魅力的な都心の実現に向け、必要となる施策の具現化を図るものです。

『都心環境ビジョン』については、その前段部分として、都心の再整備と公共空間の活用に関する方向性を示したものです。今後、都心環境ビジョンで示した方向性の具現化に向け、都心全体の取組、公共空間の活用方策等を位置づけた『都心環境プラン』を作成し、(仮称) 都心環境計画(都心環境ビジョン+都心環境プラン)としてとりまとめます。



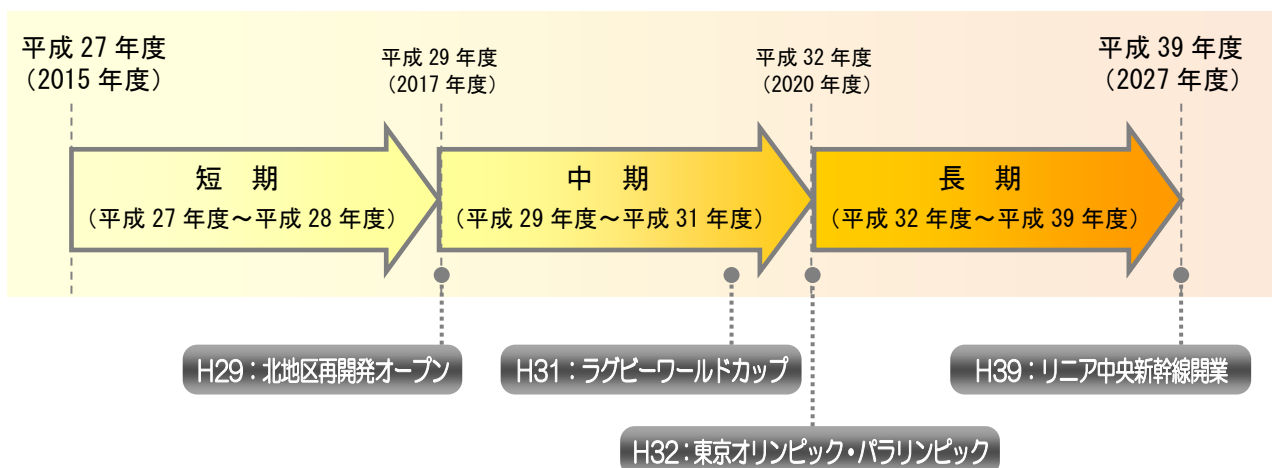
4. 対象区域

本ビジョンの対象区域は、名鉄豊田市駅及び愛知環状鉄道新豊田駅を中心とした概ね1kmの区域（約196ha）とします。（中心市街地活性化基本計画と同区域）



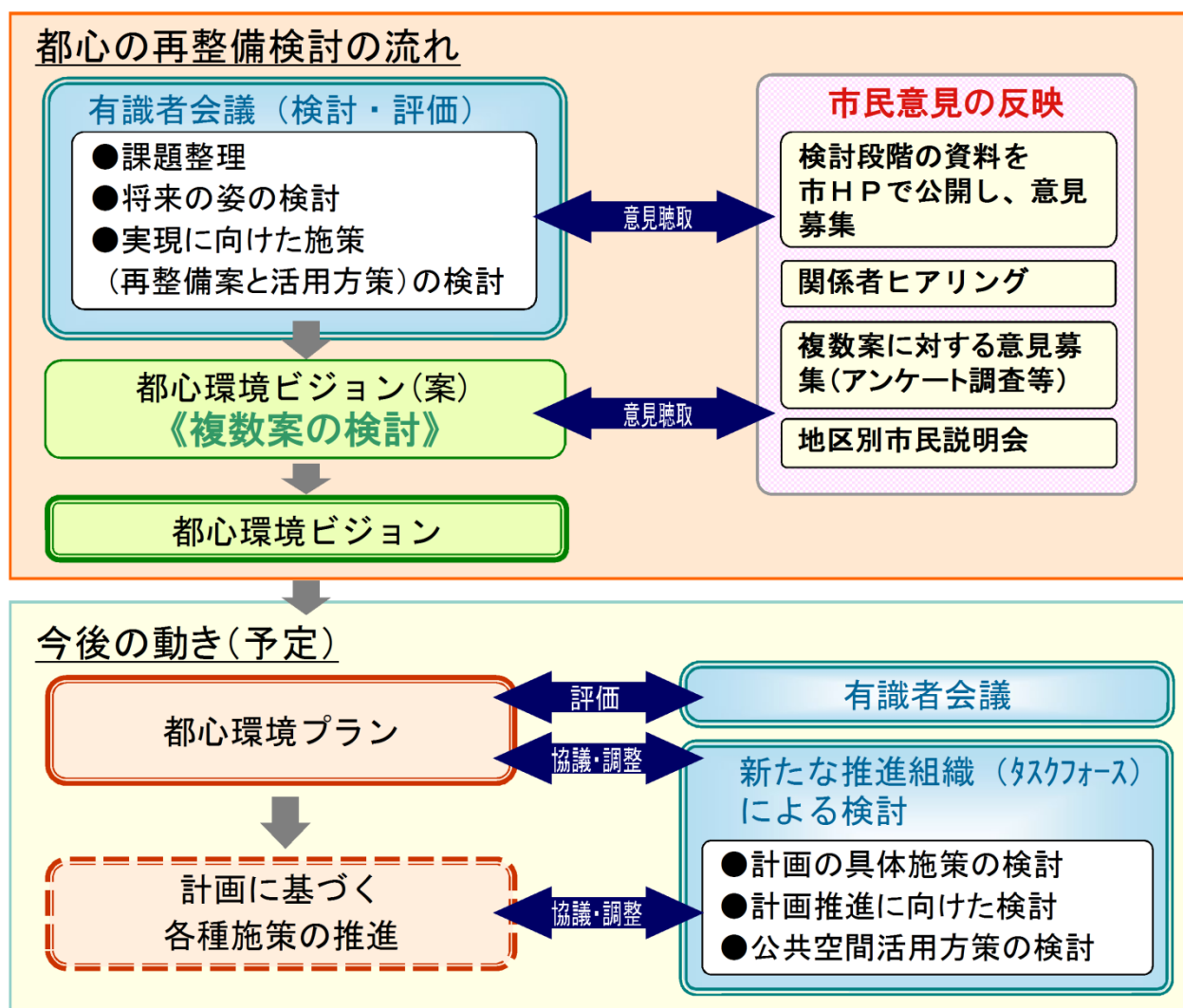
5. ビジョンの対象期間

本ビジョンの対象期間は、平成39年度（2027年度）までの12年間とします。



6. ビジョン策定の流れ

- 平成 24 年度から駅周辺の関係者を中心とした地元協議会「豊田の都心・交通を考える会」を組織し、都心のあるべき姿やその実現に向けた課題及び方針について検討を進めてきました。
- 都心再整備の推進に向けては、検討段階で、市民への情報発信や内容選択への参画を図っていくことで、整備に対する合意形成（市民理解）を図ることが重要となります。
- 本ビジョンの策定にあたっては、有識者からの技術的・専門的な見地に基づく助言や、整備推進に向け主体的な役割を担う立場の方からの意見を聴取し、その内容をビジョンに反映させることで、その方向性の適切性を評価しました。



II. 都心の現状と課題

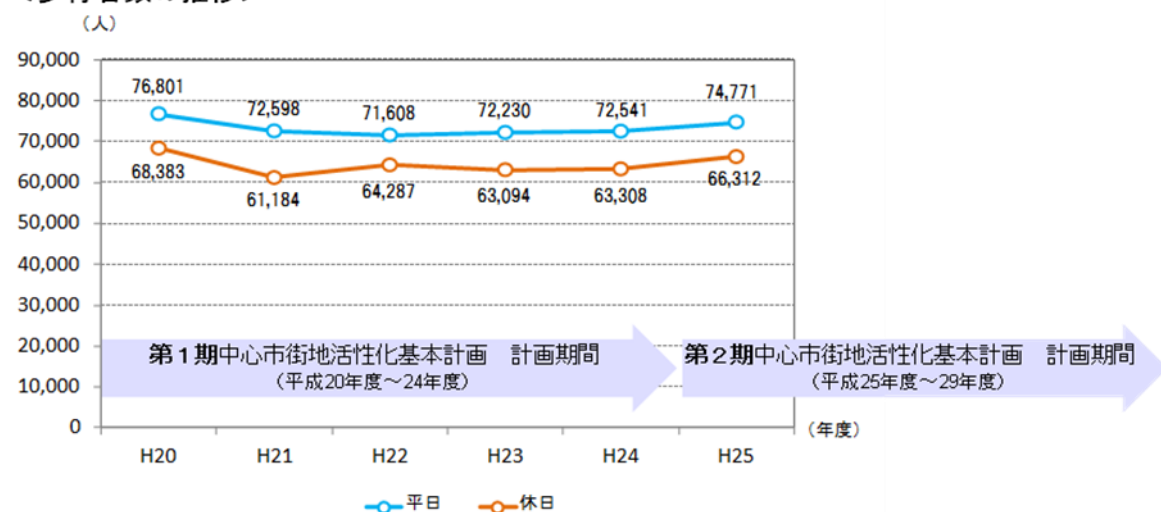
1. 都心の現状

(1) 中心市街地の歩行者数の推移

中心市街地の歩行者数は、平成22年度までは微減傾向でしたが、平成23年度以降は、緩やかな増加傾向に転じています。

また、リーマンショック（平成20年）以前の値までは回復していません。

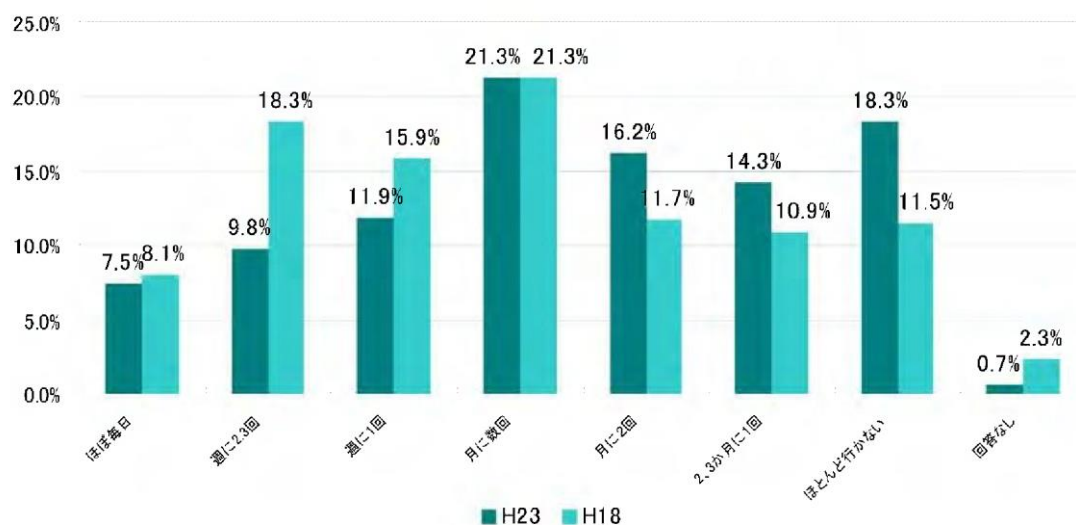
<歩行者数の推移>



(2) 中心市街地への来訪頻度の推移

平成18年と平成23年の来街頻度を比較すると、「ほぼ毎日」は同程度であるが、「週に2,3回」「週に1回」の割合が大きく後退しています。

<中心市街地への来街頻度>



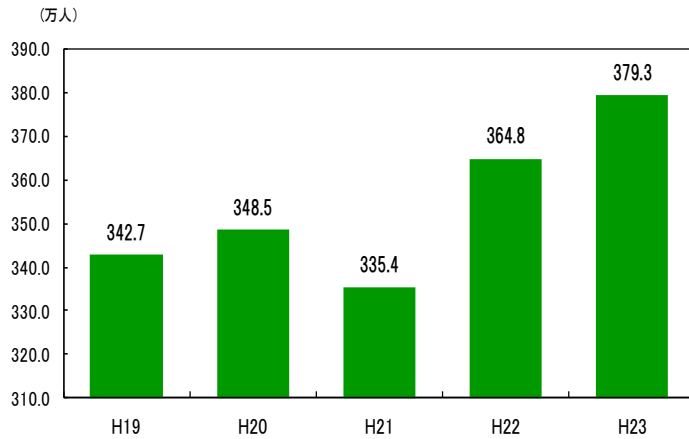
出典：第2期豊田市中心市街地活性化基本計画

(中心市街地に関する市民意識調査 (平成24年1月))

(3) 中心市街地の公共施設の利用状況推移

公共施設の利用者数は平成 21 年に若干の減少が見られますが、全体としては増加傾向となっています。

<中心市街地の主要公共施設来館者数の推移>



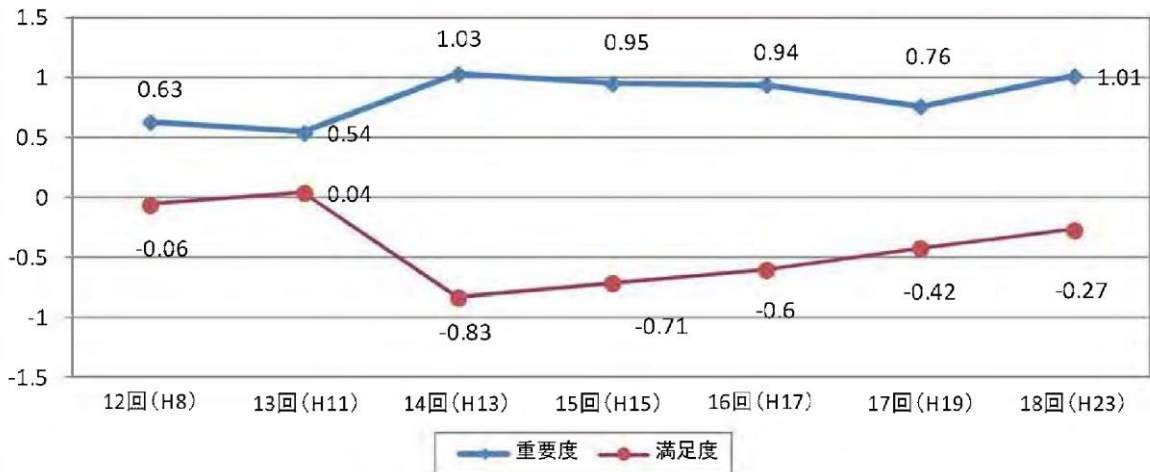
利用者の対象施設	項目
図書館	入館者数
コンサートホール	入館者
能楽堂	入館者
美術館	総数
産業文化センター	総数
	うちプラネタリウム
	うちサイエンスホール
スカイホール豊田	体育館:個人・団体(人数)
	武道館:団体(人数)
豊田スタジアム、中央公園	球技場:入場者数

出典：第2期豊田市中心市街地活性化基本計画

(4) 都心への期待 (市民意識調査)

満足度、重要度ともに平成 12 年のそごう撤退、平成 14 年のマイカル撤退が相次いだ時期を契機に大きく変化しています。

満足度は、低水準であるものの改善傾向にあります。



※重要度及び満足度の数値は、「大変満足＝2点、満足＝1点、どちらでもない＝0点、不満＝-1点、大いに不満＝-2点」という方式で点数化し、その点数を加重平均して数値。加重平均の数値が+2点であれば、すべての回答者が「大変満足」「大変重要」と答えたことを意味する。

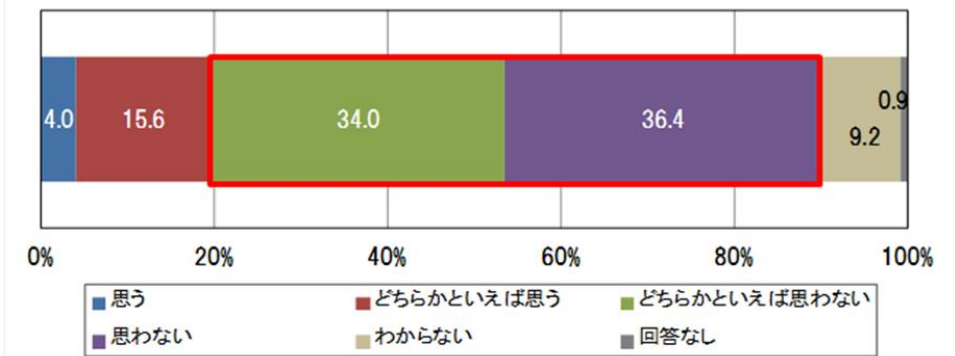
出典：第2期豊田市中心市街地活性化基本計画

(5) 中心市街地の賑わいや魅力に関する意向

中心市街地に、賑わいや魅力があると感じていない市民の割合（「どちらかといえば思わない」と「思わない」の回答割合）は約70%となっています。

調査概要	
対象者	豊田市民
調査方法	調査票を郵送にて配布・回収
有効回答者数	4,008人
調査期間	平成23年11月10日～11月28日

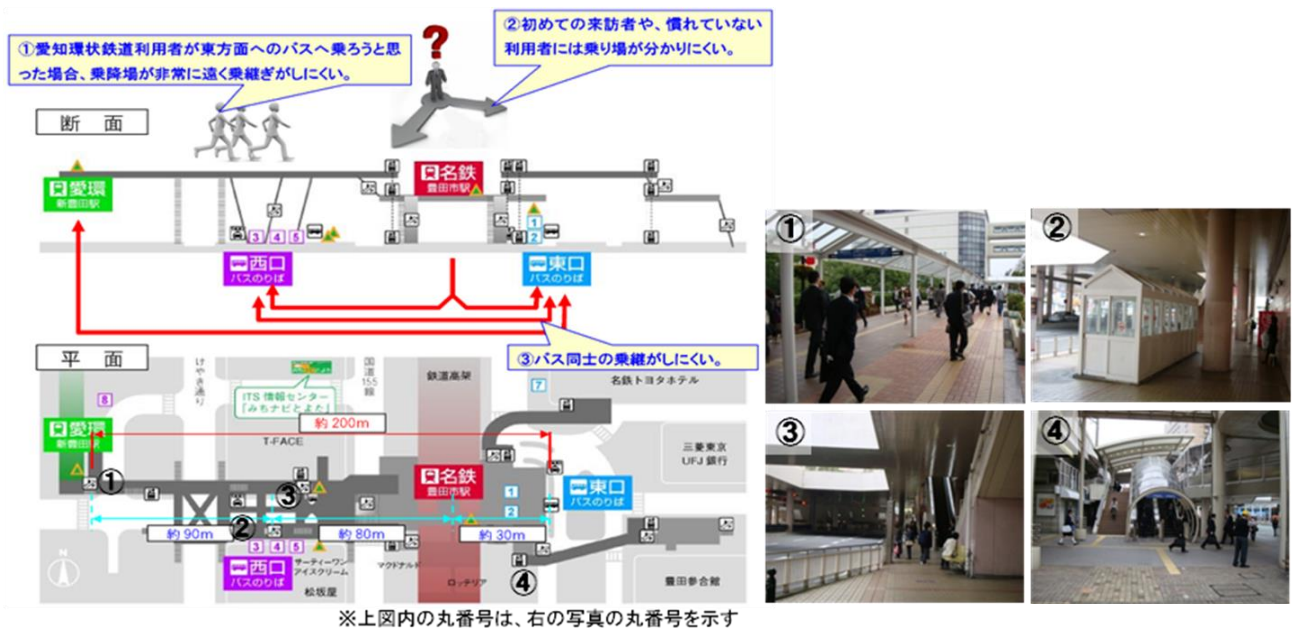
<中心市街地の賑わいや魅力の有無>



出典：第19回市民意識調査報告書

(6) 公共交通の利便性

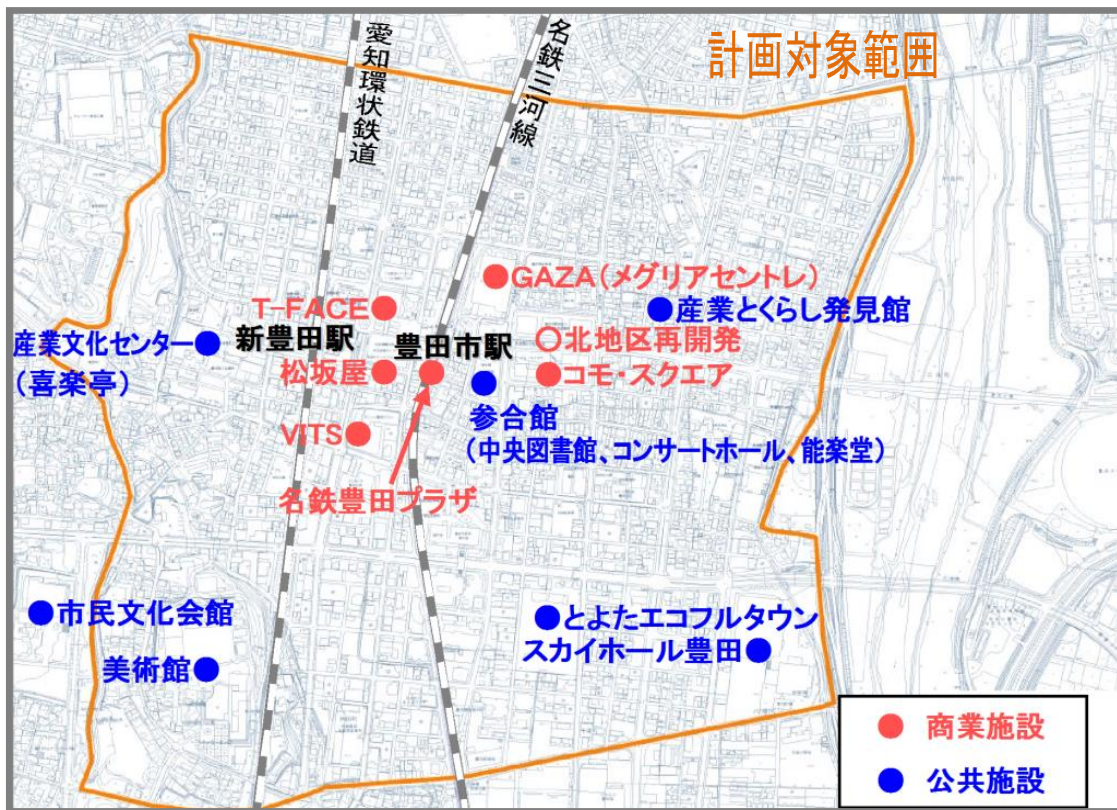
名鉄豊田市駅西口と東口のバス乗り場が離れており、特に愛知環状鉄道新豊田駅から東方面面に向かうバスへの乗継がしにくくなっています。また、待合空間でバスを待つ人と歩行者や自転車との交錯が見られるほか、ターミナル的な乗降所であるにも関わらず快適性が低くなっています。



資料：豊田市バスマップより作成

(7) 都心内の主な公共施設

都心には、近隣市のショッピングセンターにはない、様々な公共施設が立地しています。



コンサートホール(参合館)



能楽堂(参合館)



美術館



豊田スタジアム

都心公共施設利用者数

No	施設名	利用者数(人)H25実績	小計(人)
1	コンサートホール・能楽堂	80,874	999,575
	中央図書館	918,701	
2	豊田市近代の産業とくらし発見館	15,475	570,906
	産業文化センター	546,002	
	喜楽亭	9,429	
3	スカイホール豊田	437,845	667,144
	美術館	171,042	
	とよたエコフルタウン	58,257	
4	市民文化会館	346,817	2,154,258
	豊田スタジアム(広場利用者を含む)	1,807,441	
合計		4,391,883	4,391,883

※北地区再開発事業(シネマコンプレックス) : 400,000 人/年(見込み)

2. 都心の課題

前述に整理した、各種現況データを踏まえ、都心の課題を以下に整理しました。

◆活性化に関する課題

- ① **買い物拠点**としての魅力向上
- ② **時間消費型**の都市機能の充足
- ③ **昼間人口・夜間人口**の増加
- ④ 都市空間の**快適さ・演出**の充足

◆公共空間に関する課題

- ① **人々が憩える空間**づくり（滞在時間の増大への仕掛け）
- ② **水と緑のネットワーク**の創出（豊田市駅を中心とした緑の軸の形成）
- ③ 地区の特性を活かした**景観形成**、**統一感のある景観形成**
- ④ 先進的な**環境負荷低減モデル**の形成
- ⑤ **ユニバーサルデザイン**等の視点を取り入れた**公共空間の再構築**

◆交通に関する課題

■自動車

- ① 都心への**流入交通の整序化**（流入ルート of 適正誘導等）
- ② **駐車場・駐輪場利用**の適正化
- ③ **都市内道路の再構築**による環境改善

■公共交通

- ① **公共交通を軸**とした都心へのアクセス向上
- ② **バス乗降場の集約化**（豊田市駅～新豊田駅間）
- ③ バスの利便性向上に向けた**情報提供サービスの充実**

■歩行者・自転車

- ① **安全・安心・快適に回遊できる環境**づくり
- ② **歩行者通行環境の改善**（歩行者優先の回遊空間づくり）
- ③ **水と緑が感じられる歩行空間**の創出

III. 目指すべき都心の将来の姿

1. 目指すべき都心の将来の姿

目指すべき都心の将来の姿

生まれ変わる！ 人・まち・ミライに誇れる都心

- 本市の玄関口として誇れる都心の軸（顔）となっている
- 駅周辺の一体空間で人々が集い、皆の笑顔があふれている
- 誰もが都心に来やすく、都心内で快適に移動できる交通手段が充実している
- 誰もが気兼ねなく休憩できる憩い空間が充実している
- 来訪者の誰もが快適・安全に回遊できる



2. 将来の姿の具現化に向けた取組の基本方針

目指すべき都心の将来の姿

- 1 本市の玄関口として誇れる都心の軸（顔）となっている
- 2 駅周辺の一体空間で人々が集い、皆の笑顔があふれている
- 3 誰もが都心に来やすく、都心内で快適に移動できる交通手段が充実している
- 4 誰もが気兼ねなく休憩できる憩い空間が充実している
- 5 来訪者の誰もが快適・安全に回遊できる

『目指すべき都心の将来の姿』の具現化に向けた基本方針への展開

方針1：都心の公共空間の活用による賑わいと憩いの創出【1、2、4の展開】

魅力向上の分野	具体方針
①店舗・商店街 まちなかイベント	<ul style="list-style-type: none"> ■既存店舗、北地区再開発事業、商店街が連携した商業空間の創出 ■賑わいの創出に繋がる一体的な広場空間の創出 ■賑わいの創出に繋がるまちなかイベント
②居住	<ul style="list-style-type: none"> ■住みやすい居住環境の創出 ■都心居住者の増加
③景観（デザイン）、 観光	<ul style="list-style-type: none"> ■豊田市の玄関口としての見通し・眺望の創出 ■豊田らしさ（ものづくり・自然）が感じられる通りや空間の創出
④スポーツ、芸術、文化 （観戦・鑑賞・観劇）	<ul style="list-style-type: none"> ■各施設への主要動線の回遊施設の充実 ■来訪者が回遊しやすい情報提供の充実

方針2：緑にあふれ、歩行者中心の快適な回遊空間の形成【2、4の展開】

移動確保の分野	具体方針
①環境（緑化）	■緑が感じられる憩い空間や通りの創出
②歩行者	■安全で、歩いて楽しい歩行空間の確保
③情報提供	■回遊したくなる情報の提供

方針3：公共交通を軸とした都心へのアクセスの向上【3、5の展開】

移動確保の分野	具体方針
①鉄道	■広域アクセス（名古屋からの時短）の向上
②公共交通	■公共交通の利便性向上

方針4：自動車・自転車交通の適正化【3、5の展開】

移動確保の分野	具体方針
①自動車	■歩車共存を見据えた、走行空間の確保
②自転車	■自転車走行空間の利便性向上

3. 都心の再整備に向けた基本的な考え方

『再整備後の都心』を活用しやすい空間とするため、『都心の将来の姿』の実現に向け必要となる公共空間の活用を踏まえ、再整備のあり方を検討しました。

公共空間の再整備

両輪

公共空間の活用

■都心は、商業集積地であるとともに、多くの来訪者が利用する**鉄道駅2駅が位置する交通結節点となります**。そのほかにも、居住空間や業務空間などがあります。都心居住者や来訪者などの多様な主体にとって回遊性が高く魅力的な都心の実現に向けては、どれかの機能に特化した形ではなく、居住機能や文化・娯楽機能などの各種機能がバランスよく配置された公共空間の配置検討が重要となります。

商業機能

交通結節点機能（鉄道、バス、タクシー、自動車、自転車、歩行者）

居住機能

公共機能

文化・娯楽機能

観光・交流機能

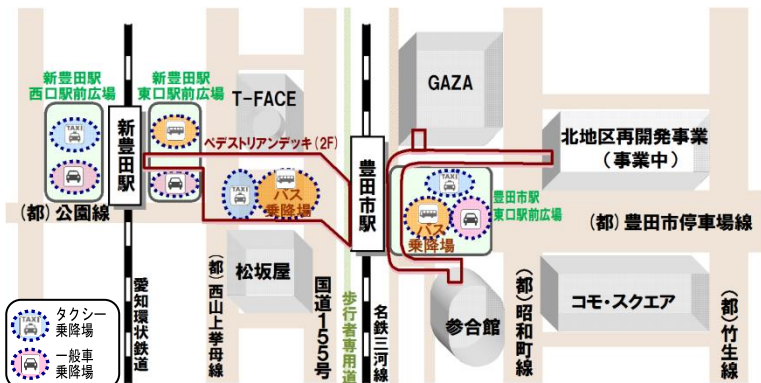
各機能の効果的なバランス配置を考慮し、公共空間の再整備に向けた検討を行いました

都心全体の魅力を高めるためには、**駅周辺エリアの利便性を高め、皆が魅力的と感じる空間とすることが重要となります**

そのため、**駅周辺エリアの現状を把握し、再整備の方向性を検討しました**

駅周辺エリアの現状

- バスへの乗換は、方面に応じて豊田市駅東西のバス乗降場へ移動しなければならない状況です
- 現状の各種イベントなどは、道路空間等で許可を受け開催している状況です
- 日常的には、駅東側の歩行者に比べ、2駅間の乗換動線の歩行者が多い状況です



駅周辺エリア再整備の方向性

- 駅前としての交通機能を確保したうえで、誰もが利用しやすい**広場空間**を検討しました。
- 駅利用者のだれもが駅周辺店舗をはじめとする**都心全体を回遊しやすくなる回遊空間**を検討しました。
- 都心の軸を形成できる空間**を検討しました。
- 生業、環境、居住、交通等の多様性に対応できる都心空間**を検討しました。

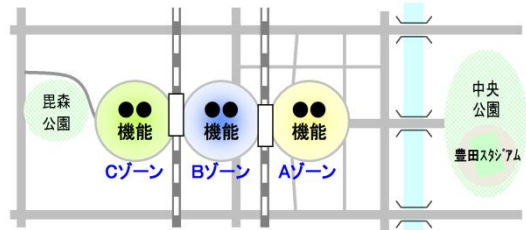
IV. 駅周辺エリアの再整備

1. 再整備案の検討

駅周辺エリアの再整備案の検討の流れ

1 複数の再整備案の検討に向け、既存機能をもとに駅周辺エリアを3つのゾーンに分類しました。

- 『目指すべき都心の将来の姿』の実現に向け、**バス乗降場、駅前広場、歩行空間等**の都心機能の配置パターンを特性に応じて検討した。
- なお、再整備案の検討にあたっては、**鉄道(名鉄、愛環)の線路変更、駅位置の変更、駅構内(コンコース)の高さの変更**は、今回のパターン検討の対象には含まず、今後の検討課題として取り扱うこととした。

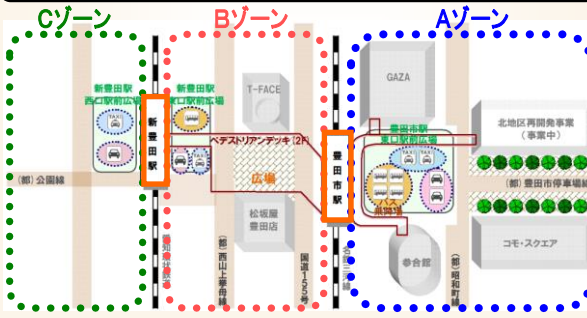


2 都心全体の魅力の向上と活用しやすい公共空間を創出するために、既存機能の再配置と新たな機能の配置パターンを検討しました。

駅周辺エリアに対し、以下のとおり配置パターンを検討

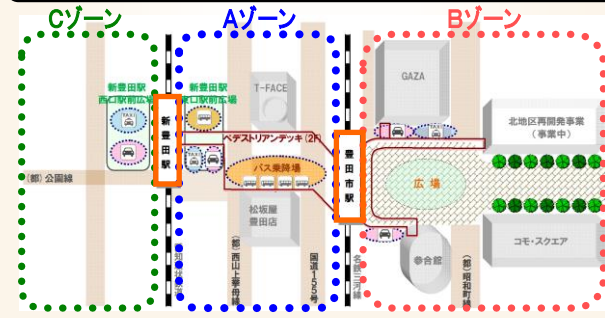
■豊田市駅西側を一体的に広場(にぎわい機能)にした空間

- Aゾーン：交通結節点機能を中心としたゾーン
- Bゾーン：にぎわい機能を中心としたゾーン
- Cゾーン：交通結節点のサポート機能を中心としたゾーン



■豊田市駅東側を一体的に広場(にぎわい機能)にした空間

- Aゾーン：にぎわい機能を中心としたゾーン
- Bゾーン：交通結節点機能を中心としたゾーン
- Cゾーン：交通結節点のサポート機能を中心としたゾーン



- ①広場空間の確保のための道路通行規制（豊田市停車場線、国道155号等の周辺道路の規制）
- ②軸の確保のための東西軸の見通し改善（豊田市駅地上部の通路やペDESTリアンデッキの改修等）

上記の細分化要素（Bゾーン）を組合せ
8通りに細分化

上記の細分化要素（Aゾーン）を組合せ
14通りに細分化

最終的に以下の5案を選定

広場西口案

広場東口案

広場東口・西口
トランジットモール案

広場一体案

現状案



3 5つの再整備案を評価するため、都心の将来の姿の具現化に向けた基本方針をもとに、整備による『賑わい』や『回遊性』を向上させる要因や整備による懸念事項等を整理した8つの評価項目を設定しました。

駅周辺エリアの再整備案の評価の流れ

1 検討した5つの再整備案について、以下の8つの評価項目による評価を行いました。

【再整備案を評価した評価項目】

- ①都心の軸（顔）となる空間の確保
- ②にぎわい空間の確保
- ③公共交通利便性（乗換環境）の確保
- ④憩い空間の確保
- ⑤都心内の回遊しやすさ
- ⑥自動車利用の確保（交通規制による影響）
- ⑦実現の困難性
- ⑧実現期間（整備までの期間）の妥当性

広場西口案

広場東口案

トランジットモール案
広場東口・西口

広場一体案

現状案

2 再整備案の評価結果は、シンポジウム及び市民説明会で提示したほか、市民アンケート調査にて「望ましい再整備案」や「期待項目」に関する意見を聴取しました。結果としては、**駅東側を広場空間とする案への評価が高かったほか、公共交通の利便性（乗換環境）、都心内での回遊性向上や駐車場の使いやすさに対する期待の高さが確認できました。**

3 市民アンケート調査結果からは、8つの評価項目による再整備案の評価が概ね妥当であることを確認できました。

4 再整備案としては、公共交通の利便性（乗換環境）の確保及び都心内の回遊しやすさを重視し、**駅東口に広場を創出する案の発展形となる『広場東口・西口トランジットモール案』が再整備の理想形として評価しました。**

駅周辺エリア再整備案

【コンセプト（ねらい）】

- 豊田市駅周辺の店舗と連続する**一体的な広場空間を創出**することで、都心での**新たな過ごし方**を提供します。
- バス乗降場を両駅の間集約することで、**バス利用時の乗り換え環境を向上**させます。
- 西側のペデストリアンデッキは現存させるとともに、豊田市駅地上部に自由通路（歩行者等）を設けることで、**豊田市駅東西の回遊性を向上**させます。
- 国道155号は**バスのみを通行可能とするトランジットモール化**を行い、歩行者優先空間を創出することで、**豊田市駅東西に立地する店舗がグランドレベルで行き来しやすく**します。

※国道155号のトランジットモール化は、豊田南北バイパス等の整備完了が前提



都心再整備案における豊田市駅東西の公共空間のイメージ

(※イメージ画像のため、各種空間の活用内容については確定したものではありません)



名鉄豊田市駅西側のペDESTリアンデッキは、地上部の様子を
分かりやすく表現するため透過させて描いています

V. 公共空間の活用を踏まえた再整備後の都心の姿

1. 都心の公共空間の活用イメージ

駅周辺エリアでは、日常的に広場空間を活用したイベントや市民活動が開催され、その空間では最先端のモビリティが体感できます。また、都心内の公共施設とも様々な形で連携し、都心全体が賑わいをみせています。



※出典：グランドプラザ（富山市）

大型商業施設の賑わい

H25 8,399,573人
(大型商業施設、再開発施設利用者数)
 H34.3 30%アップを目指す
*テナントミックスビジョン再構築プロジェクト会議目標数値
 ・GAZA専門店街
 ・メグリア・セントレ
 ・T-FACE
 ・松坂屋
 ・名鉄トヨタホテル
 ・ホテル豊田キャッスル
 ・北地区再開発(シネマコンプレックス等)

大型商業施設の改修
 H25～テナントミックスビジョン再構築プロジェクト会議
 H26～第1期整備(T-FACE 2階改装、テナント入替、T-FACEトイレ改修)
 ファサード整備

都心公共施設の賑わい

H25 4,333,626人
(都心公共施設利用者数)
 H34.3 30%アップを目指す
 ・図書館
 ・コンサートホール・能楽堂
 ・市民文化会館
 ・近代の産業と暮らし発見館
 ・喜楽亭
 ・美術館
 ・産業文化センター
 ・スカイホール豊田
 ・豊田スタジアム、中央公園
 ・民有地広場等(既存)
 ・まちなか広場(新設)

賑わいと憩いの広場空間



北地区再開発事業

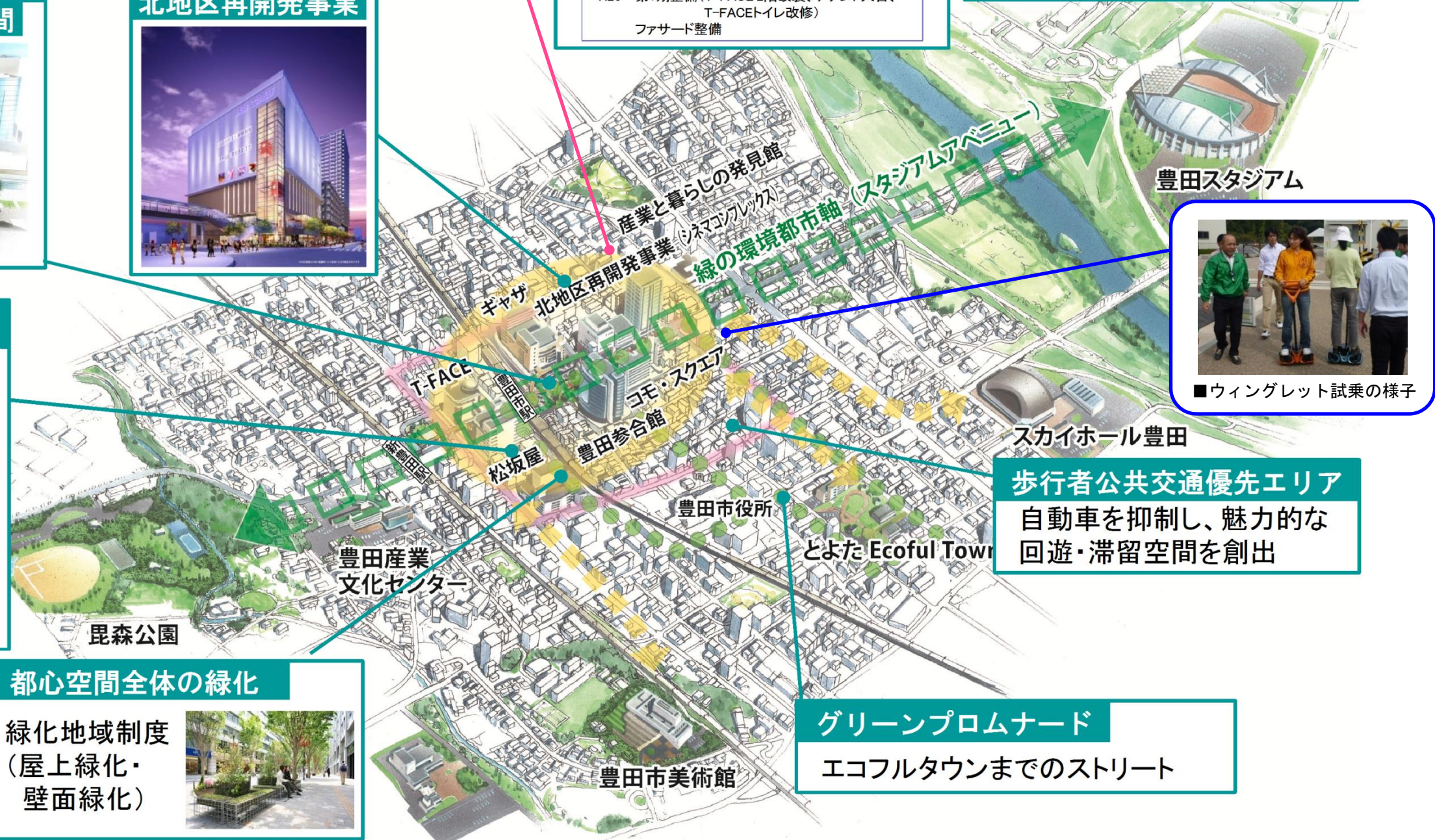


商業機能の充実



都心空間全体の緑化

緑化地域制度
 (屋上緑化・壁面緑化)



■ウィングレット試乗の様子

歩行者公共交通優先エリア

自動車を抑制し、魅力的な回遊・滞留空間を創出

グリーンプロムナード

エコフルタウンまでのストリート

2. 都心の公共空間の再整備イメージ



3. 都心の再整備に向けた今後の進め方

ステップ1（～平成27年1月）

- 計画の基本方針となる「都心環境ビジョン」の確立

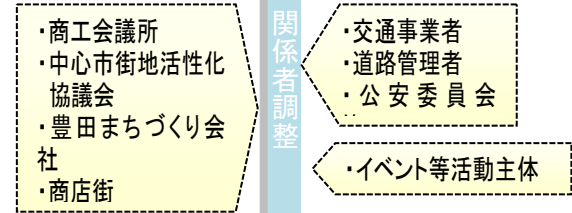
都心環境ビジョンの策定



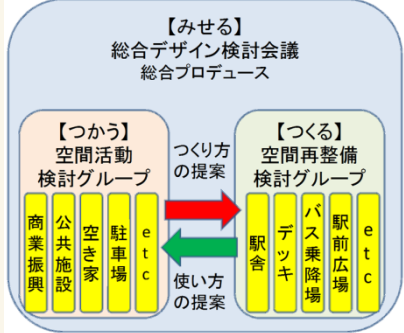
ステップ2（～平成27年9月予定）

- 関係者等との調整・協議を踏まえ、実効力を高めるためのステップアップ

(仮称)都心環境計画の策定 「都心環境ビジョン」+「都心環境プラン」



- 1 都心環境ビジョンを事業レベルに具現化するための新たな推進組織（タスクフォース）を設置
- 2 施策の分野に応じ、部会での詳細検討を実施
- 3 都心全体の具現化した整備をまとめた計画の作成（都心再整備・活用の実効力を高めた推進プラン）
- 4 都心関係者への取組スケジュールのオーソライズ

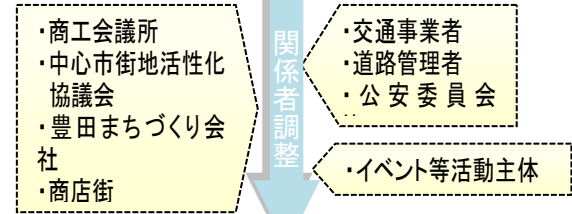


■新たな推進組織（タスクフォース）のイメージ

ステップ3（～平成29年度：北地区再開発オープン時）

- 北地区再開発オープン時を見据え、各種事業の推進及び公共空間の活用に向けた具体的な活動への展開

(仮称)都心環境計画の実行



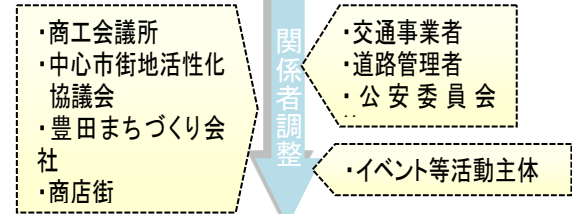
- 1 (仮称)都心環境計画に基づき、各種事業の推進
- 2 広場空間の管理運営の検討
- 3 広場活用プランの検討・準備（オープンカフェ社会実験など）



■北地区再開発

ステップ4（～平成39年度：リニア開通時）

- ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック、リニア開通等のビックイベントを見据え、各種事業の推進及び公共空間の活用に向けた本格的な運用への展開



- 1 (仮称)都心環境計画に基づき、各種事業の推進
- 2 拡充する広場空間の指定管理化の検討
- 3 まちなか広場の本格運用に向けた活用プランの検討・準備